

# 宮古島地方における商品化空間の分布と地域性

篠原 秀一

## Regional Characteristics and Distribution of Spatial Commodification in the Miyako Island region, Okinawa Prefecture, Japan

SHINOHARA, Shuichi

### Abstract

The Miyako Island region is one of the most southerly regions in Japan and is visited by many tourists. Spatial commodification in the Miyako Island region has the following regional characteristics.

- (1) Even in the Miyako Island region, the degree of spatial commodification varies from place to place.
- (2) Tourist resources that are largely dependent on automobile traffic are prominent, but attractive resources can be observed on foot.
- (3) Most of the daytime agricultural and fishery spatial merchandising is done during the winter season, which is relatively quiet.
- (4) It is not easy to maintain resources due to natural disasters such as typhoons.
- (5) If local living resources are forcibly provided as tourist resources for outsiders, the result will be the loss of spatial commercialization that is unique to the Miyako Island region, and the possibility of overall decline.

**Key Words:** spatial commodification, regional characteristics, Miyako Island Region, Japan

### I. はじめに

「空間商品化」および「商品化空間」は、当初は「都市」に顕著な現象・空間であった。「都市」は基本的に多くの「ひと・もの・こと」を人為的に集散させ、ある意味をもった土地すなわち「空間」が、外来者に対して人為的に設計・組織・利用・意味づけされるように仕向けられるからである。「村落」でも「空間商品化」が見られるようになったのは、「村落」でも「ひと・もの・こと」が頻繁に出入りするようになって以来である。

「商品化される空間」も、他の「商品」と同様に、何らかの金銭を払って移動または購入して得られるような、市場価値のある「資源」がなければ展開できない。その「資源」自体が移動するかしらないか、天然か人工かで、「商品化空間」は種類が分かれる。

「資源」自体が移動する「商品化空間」は、そこでの生産物を生み出す空間であり、農山漁村であれば農林水産物を生み出す農地・林地・漁場およびその産物加工地域が相当し、都市であれば製造業の生産物を生み出す工場地域が相当する。ここでの「資源」は天然と人工のものが混在し、地域ブランド商品を含む物産の購入として現象化する。「資源」自体が移動しない「商品化空間」は、

都市であれば多くが人工的空間であり、農山漁村であれば多くが天然性空間で、その購入者自身が移動して、その「資源」を受益する。この場合、「商品化空間」の受益は、旅行者の学習を含む実体験として現象化されることが多く、物産購入と同様以上に交通・物流が「空間商品化」には重要であり、多くは周年供給されない。

以上をまとめるならば、「商品化された空間」が生み出すのは、ある程度は地域ブランド化され、そこでしか生み出されないとされる「商品」、外来者向けの天然・人工の物品または風景または実体験である。より具体的には、「商品化された空間」を生み出す「資源」は、そこが漁村・水産都市であれば、地域ブランド化された水産物であり、都会では味わえない綺麗な空気と水陸の景色であり、他地では体験できない臨海・沿岸地ならではの生活様式や生活の知恵・用品であり、他地では実感できない歴史的・文化的遺産の見学・学習体験である。部分的には、地元生活者の「生活資源」と外来者向けの「商品化資源」が競合する場合もあり、地域によってはそのことが大きな観光問題などになっていることがある。

以下では、基本的には大都市遠隔臨海地で、地元・外来の多くの人々が住み集まる宮古島地方（第1図）における「商品化空間」の分布と地域性について、その「資



第1図 研究対象地域：宮古島地方（宮古島市部分）  
 （国土地理院2007年（平成19）年編集1／20万地勢図「宮古島」を部分採録）

源」に着目して検討する。宮古島市役所観光商工課「宮古島観光マップ」（2023年3月版）を中核資料とし、2016年以来的地域調査の成果も交えて記述を進める。

## II. 宮古島市における商品化空間の分布と地域性

第1表には、宮古島地方（宮古島市）における空間商品化の資源別地域事例を示した。本文中の資源記号は第1表と対応する。以下では、「商品化空間」の分布と地域特性を、資源事例の種類別に具体的に検討する。

第1表 宮古島市における地域空間商品化の資源事例とその地域分布（2023年末現在）

資源種類	記号	資源名称	所在地域・生産地域	備考
農水産物	A①	サトウキビ	宮古島市内畑地の大部分	加工された「黒糖」として多くが販売される
	A②	宮古牛	宮古島城辺・上野・平良地区ほか	スライス等加工されて販売
	A③	カツオ生利節	伊良部島佐良浜集落、宮古島平良地区ほか	原料のカツオは枕崎から取り寄せることもある
	A④	宮古そば（すば）	宮古島市内各地の多様な食堂で食味可能	専門店あり；「伊良部そば」にはカツオ生利節入る
	A⑤	クルマエビ	宮古島東岸高野漁港および狩俣地域	漁協ほかが養殖
	A⑥	雪塩	生産地は狩俣地域工場、販売地は宮古島市内各所	「雪塩」は登録商標、関連加工品は多種類あり
自然風景	B①	前浜ビーチ	宮古島前浜港近接	宮古島で最も著名な海浜
	B②	来間大橋	宮古島と来間島の間	約1700mの農道橋ながら、橋上から海域絶景
	B③	伊良部大橋	宮古島と伊良部島の間	大型船舶が下を通れる大架橋、海域絶景
	B④	トゥリバービーチ	宮古島の伊良部大橋詰に近接	ヒルトンホテルが立地
	B⑤	バイナガマビーチ	宮古島の平良港に近接	海水浴場にもなっている
	B⑥	砂山ビーチ	宮古島平良地区下崎地域	狭域で海岸地形を楽しめる
	B⑦	西平安名崎・風の公園	宮古島平良地区狩俣地域	狩俣バス停から徒歩で30分
	B⑧	池間大橋	宮古島と池間島の間	大橋途中でも両橋詰でも海域の絶景を望める
	B⑨	新城海岸・吉野海岸	宮古島城辺地区の南東臨海地域	陸上部にはゴルフ場が近接
	B⑩	保良泉（ぼらが）	宮古島城辺地区南東、保良地域	断崖から望む海域絶景、天然湧水プールも有名
	B⑪	東平安名崎	宮古島城辺地区の東南端	保良漁港、伝説「mamyaの墓」も近接
	B⑫	イムギャーマリンガーデン	宮古島城辺地区友利地域	博愛漁港（友利地区）近隣、磯浜海浜の美を味わえる
	B⑬	渡口の浜	伊良部島南西部海岸	微細な白砂の海浜として著名で、船着き場跡もある
	B⑭	中の島海岸	下地島西海岸小湾	スキューバダイビング体験の外来者が多く集う
	B⑮	通り池	下地島西海岸	海岸浸食による円形陥没地形を複数観察できる
	B⑯	下地島空港 17END	下地島北端	エメラルドグリーンの海域、結婚記念写真場としても著名
	B⑰	佐和田の浜	伊良部島北部	リゾート型貸別荘が近接
	B⑱	佐良浜漁港	伊良部島東部	漁港から見る集落も、集落高台から見る漁港周辺も絶景
	B⑲	牧山展望台	伊良部島東南部高台	鳥が飛ぶ形の外観の展望台からは海域絶景
	B⑳	竜宮城展望台	来間島東部高台	近隣に御嶽あり、前浜ビーチを眺望できる
自然観察・受益の場所・施設	C①	島尻マングローブ林	宮古島平良地区島尻地域	観察遊歩道あり
	C②	川満マングローブ林	宮古島下地地区川満地域	観察遊歩道あり
	C③	池間湿原	池間島中央北部	野鳥の楽園とされる
	C④	宮古島海中公園	宮古島平良地区狩俣地域西海岸	健康ふれあいランド公園隣接
	C⑤	エメラルドコーストゴルフリンクス	宮古島東部海岸	来間大橋に近接
	C⑥	シギラベイカントリークラブ	宮古島東部海岸	うえの文化村とイムギャーマリンガーデンの中間に立地
	C⑦	オーシャンリンクス宮古島	宮古島吉野海岸	東平安名崎に近接
	C⑧	サシバリンクス伊良部	下地島東部中央	旧ジェット機パイロット養成施設宿舍「サシバの里」近隣

資源種類	記号	資源名称	所在地域・生産地域	備考
歴史・文化・記念・祈念の学習施設や遺産・場所	D①	宮古島市総合博物館	宮古島平良地区添道地域	歴史・民族・文化の総合博物館
	D②	宮古島市熱帯植物園・体験工芸村	宮古島平良地区添道地域	総合博物館の近隣に立地
	D③	宮古島市地下ダム博物館	宮古島城辺地区福里地域	地域コミュニティ施設内
	D④	うえのドイツ文化村	宮古島上野地区宮国地域	「ベルリンの壁」展示もあり
	D⑤	宮古島市伝統工芸品センター	宮古島上野地区野原地域	県道78号・201号分岐点近隣
	D⑥	宮古島海宝館	宮古島城辺地区保良地域	保良泉に近接
	D⑦	国立宮古南静園	宮古島平良地区大浦地域東海岸	平良地区の宮古島市役所と池間島を結ぶバス路線にある
	D⑧	漲水御嶽	宮古島平良地区中心市街	平良港に近接の由緒ある御嶽
	D⑨	ドイツ皇帝博愛記念碑	宮古島平良地区中心市街	ドイツ難破船員を上野村住民が救助したことへの感謝碑で、「文化村」の由来
	D⑩	仲宗根豊見親の墓	宮古島平良地区平良港に近隣	宮古島を統一した親方の墓地
	D⑪	人頭税石	宮古島平良地区平良港に近隣	納税人数基準としてこの石の高さが使われた苦境時代の跡
	D⑫	大和井（ヤマトウグー）	宮古島平良地区	水確保に苦しんだ時代史跡，庶民利用不可だったという
	D⑬	久松五勇士顕彰碑	宮古島平良地区久松地域	久松漁港横の高台に設置
	D⑭	サバウツガー	伊良部島東部佐良浜地域の北端	水確保に苦しんだ時代史跡，サバオキ公園・墓地に近接
日常風景・生活用品	E①	宮古太陽光発電実証研究設備	宮古島城辺地区七又海岸	宮古島での強烈日射を利用
	E②	サトウキビ畑の水利施設	宮古島地方各地の畑地	スプリンクラー用水もある
	E③	御嶽・拝所	宮古島地方各地	有名も無名もあまり観光資源としては紹介されない
	E④	タカサゴ（グルクン）	近海漁獲；地元住民利用スーパーなどで時折販売	鮮魚販売が多い；その稚魚はカツオ漁の餌とされる
	E⑤	桃色げんまい	地元住民利用スーパー，観光客向け売店でも販売	米粉による半固形の冷製飲料
	E⑥	うずまきパン	地元住民利用スーパー，空港土産物店でも販売	伊良部島で製造のカステラ生地と砂糖クリーム菓子パン
	E⑦	儀式用線香・紙銭	地元住民利用のスーパーで販売される	この地域独特の儀式・行事用で，その色彩や形状も独特
	E⑧	水字貝	宮古島地方各地の伝統的集落	魔除けとして宅地玄関門柱に
	E⑨	シーサー	宮古島地方各地の伝統的集落	魔除けとして宅地玄関門柱に；様々な形状・大きさあり
	E⑩	パーントゥ	宮古島平良地区島尻地域・上野地区野原地域	UNESCO無形文化遺産にも指定された集落民俗行事
観光拠点	X①	あたらす市場	宮古島平良地区	JAみやこ直売所
	X②	島の駅	宮古島平良地区	民間営業の各種物産販売店舗で，複数の食堂も附属
	X③	宮古島市公設市場	宮古島平良地区	1階に物産・サービス店舗，2階に郷土食堂
	X④	平良港フェリーターミナル	宮古島平良地区平良港	2階に公務施設，隣接に「市民劇場」
	X⑤	宮古空港	宮古島平良地区	那覇・多良間・東京・大阪等への国内線空港
	X⑥	下地島空港	下地島中央部	元はジェット機パイロット訓練地，国際線もある
	X⑦	海の駅いらぶ	伊良部島（大橋橋詰）	土産物店・洗面所・食堂・駐車場を設備
	X⑧	宮古島市役所(商工観光課)	宮古島平良地区	各種商工観光情報も発信

\* 資源記号は本文中記述と共通する。  
 (「宮古島観光マップ」(2023年3月版)および2016～2023年の現地調査結果をもとに作成)

## 1. 農水産物

宮古島市らしい農産物としては第1に、最大産業資源である「サトウキビ」(A①)があげられる。宮古島地方では農地のほとんどが施設園芸地を含む畑地であるが、宮古島、伊良部島、下地島、来間島、池間島のいずれでも、面的に最も目立つ風景はサトウキビ畑である。このサトウキビは「黒糖」として宮古島内2か所または伊良部島1か所で加工され、商品化される(篠原, 2021)。この農業地域のサトウキビ畑の広がりの中に、「宮古牛」(A②)の小規模な畜舎が点在する。これら畜舎は屋根が低く、外からは薄暗く見える。

これ以外に、「宮古島観光マップ」(2023年3月版)では、果物としてマンゴー、パパイヤ、島バナナ、メロン、パイナップル、ドラゴンフルーツ、パッションフルーツ、グアバ(「ばんきちろう」)、野菜としてニガウリ(「ゴーラ」)、ヘチマ(「ナーベラー」)、島ラッキョウ、ニガナ(「ンギャナ」)、トウガン(「スー」)、「ナンコウ」(宮古在来カボチャ)、アロエベラ(「いしゃいらず」)、ウコン(「ウキャン」)、タチアワユキセンダングサ(「ムツクサ」)、農産加工品の宮古味噌(「宮古ンツウ」)も特産品とされる。これら地場産農産物は、JA直売所である「あたらす市場」(X①)や観光土産物を主に扱う「島の駅」(X②)及び「宮古島市公設市場」(X③)などで、「黒糖」(販売品には多良間産も多い)と「宮古牛(肉)」とともに購入できる。さらに、「宮古ぜんざい」は小豆のやさしい甘味品で地元風味の一部を成し、地場の「泡盛」も市内複数の蒸留所で製造され、各所で販売されている。さらに、「バナナケーキ」は「宮古島観光マップ」には掲載されていないが、宮古島市の複数企業が製造する特産菓子類である。

宮古島市らしい水産物としては、伊良部島佐良浜漁港(及びかつては池間島池間漁港)を中心に漁獲・水揚げされる「カツオ」とその加工品「カツオ生利節」(A③)があげられる。そのカツオ漁業・加工業の隆盛については、民俗学者や漁業経済学者がかつて貴重な研究記録を残したが、2023年現在ではその水揚げはすっかり少なくなった。代表的郷土食と言える「宮古すば(そば)」(A④)の発展形である、伊良部島独自の「伊良部そば」は、今もカツオ角煮を豚角煮の代わりに使い、伊良部島にはカツオ漁業者・加工業者が複数所在する。この「カツオ生利節」は、「黒糖」「宮古牛」とともに、宮古島市内の土産物店で多く見受けられる。また、宮古島東岸中央の高野漁港または狩俣地区で養殖されるクルマエビ(A⑤)は、モズク(「スヌィ」)、海ブドウ(「ンキャフ」)、海藻寒天(「ウルウ」)、岩ノリ(「アーサ」とともに、「宮古島観光マップ」では特産品にあげられている。さ

らに、宮古島で流通するカマボコ類は「宮古島観光マップ」(2023年3月版)では言及されていないが、板状の形状と風味が特徴的で、地元消費者が出入りするスーパー・コンビニでも販売される「地元食品」である。地元業者が開発販売する「雪塩」(A⑥)は狩俣地区の海水を元とし、純粋な塩類のほか、加工された菓子類・化粧品類としても、狩俣漁港近くにある「雪塩ミュージアム」(既述「島の駅」と同列企業が経営)ほか市内各所の土産物店で販売されている。

以上、宮古島らしい農水産物の生産地域は、中心市街地以外の農地が広がる地域、臨海の漁港とそこに程近い海域全体が相当し、直売店を除けば、外来者が安易に踏み込める空間ではないが、地元農漁業者が組織する広域の生産地的「商品化空間」となっている。

## 2. 自然風景と別荘・リゾート地

他の沖縄県観光地と同様に、宮古島地方各所の海岸風景を主とする自然風景は、外来者の多くを惹き付ける。その空間は、上記の生産地的「商品化空間」とほとんど重複しない「商品化空間」で、外来者が来訪・消費することを前提とする交通手段・施設が整えられ、一部は限られた人々のみが利用できる別荘・リゾート地になっていることも多い。近年では、宮古島だけではなく、来間島・伊良部島でも、生産地的「商品化空間」以外の「綺麗な海岸風景を眺望できる」未利用臨海地域が、観光地化とりわけ別荘・リゾート地化してきた。ただし、従来「未利用臨海地域」であった場所はそれなりの理由があった可能性があり、時折発生する地震と津波を考慮すれば、安全な観光地とは言えない可能性が高い。

「宮古島観光マップ」(2023年3月版)に紹介されている自然風景は、砂浜の白さと海の青緑が綺麗な、多少は人為的に整備された風景地が多い。たとえば、宮古島・来間島には、来間島を望む宮古島東急ホテル&リゾートが近接する「前浜ビーチ」(B①)と「来間大橋」(B②)周辺、大型フェリーがその下を通れるように作られた大架橋「伊良部大橋」(B③; 平良地区久松地域と伊良部島東南端(長山港より東)を結ぶ; 架橋年次が第1図原図発行以降のため、第1図には示されていない)周辺、今ではヒルトンホテルが立地する「トゥリバービーチ(宮古島コースタルリゾート)」(B④)、平良港隣接の「バイナガマビーチ」(B⑤)、下崎地区の「砂山ビーチ」(B⑥)、狩俣地域先端の「西平安名崎と風の公園」(B⑦)、狩俣地域と池間地域を結ぶ「池間大橋」(B⑧)周辺、宮古島南東端に近い「新城海岸および吉野海岸」(B⑨)と「保良泉(ぼらが)」(B⑩)周辺、宮古島南東端の「東平安名崎」(B⑪)周辺、博愛漁港(友利地区)に隣接

する「イムギャーマリンガーデン」(B⑫)などがある。下地島・伊良部島には、下地島と伊良部島間の入江の南東端に位置する砂浜「渡口の浜」(B⑬), スキューバダイビングで人気の「中の島海岸」(B⑭), 珍しい海岸浸食地形を見せる観光地「通り池」(B⑮), 海色が鮮やかな下地島空港滑走路先端周囲の「下地島空港 17END」(B⑯), 大津波跡の巨石や魚垣も見られる「佐和田の浜」(B⑰), 高台から見た漁港と海の景色が鮮やかな「佐良浜漁港」周辺(B⑱)などがある。自然風景のより人工的な展望台としては、伊良部島から伊良部大橋と宮古島を遠望できる「牧山展望台」(B⑲)や来間島から前浜ビーチを望める「竜宮城展望台」(B⑳)がある。また、容易に近づけないが、宮古島北方 15km にある珊瑚礁群「八重干瀬」は宮古島地方独特の景観であり、漁業者にとって大切な場所である。宮古島地方の諸島嶼自体が珊瑚礁を母体ともしており、「サンゴ」もまた、宮古島市の特産工芸品である。

以上に加えて、「島尻マングローブ林」(C①)と「川満マングローブ林」(C②), 「池間湿原」(C③)では、南西諸島以北では見られない海岸植生・動物を観察できる。「宮古島海中公園」(C④)では人工施設ながら海中の海棲生物を観察できる。宮古島地方では、中心市街地を除けばどこでも、市島のサシバ、市花のプーゲンピレア、市花木のデイゴ、市木のガジュマルのほか、アダン、テッポウユリ、ハウオウボク、ヤシガニなど宮古島地方らしい動植物に気づける可能性がある。海岸景勝地付近では、スキューバダイビング体験や小型船底から海中観察できる体験を提供する複数の業者が、博愛漁港(宮国地区)、池間漁港、佐良浜漁港など各地の漁港を拠点に営業し、また、宮古島南海岸を中心に臨海ゴルフ場が3か所(C⑤⑥⑦), 下地島・伊良部島間の入江沿いに1か所(C⑧)ある。

以上はいずれも、この宮古島市を来訪しなければ見ること体験することもできない「観光地」であるが、市街地の居酒屋などとは対照的に、昼間のみ接近可能な観光体験資源と言える。

### 3. 歴史・文化・記念・祈念の遺産・施設・場所

宮古島地方の歴史文化遺産については、宮古島各地の諸施設内や集落内外の野外で、さまざまに学習可能である。施設拠点での学習体験は、昼間を中心とする施設開設・営業時間に限定される。集落内での記念碑や史跡なども、夜間はほとんど観察不能である。

施設拠点としては、たとえば、「宮古島市総合博物館」(D①)で宮古島地方の文化・歴史を総合的に、「宮古島市熱帯植物園・宮古島市体験工芸村」(D②)で島内の

植物と地場工芸体験について、「宮古島市地下ダム資料館」(D③)で農業水利と地下ダムに関して、「うえのドイツ文化村」(D④)で宮古島とドイツとの人的交流由来とドイツ文化について、「宮古島市伝統工芸品センター」(D⑤)で特産織物「宮古上布」等について、民間施設ながら「宮古島海宝館」(D⑥)で宮古近海の貝類について、「国立宮古南静園」(D⑦)の人権啓発交流センター(ハンセン病歴史資料館)で予約をすればハンセン病患者の苦境の歴史と人権問題を、詳しく学べる。残念なのは、以上の諸施設のうち、「うえのドイツ文化村」と「国立宮古南静園」以外は、公共交通機関であるバスの停留所に近接せず、交通手段が乗用車に限られる点である。

市街地・村落内外の野外には、「漲水御嶽」(D⑧), 「ドイツ皇帝博愛記念碑」(D⑨), 「仲宗根豊見親の墓」(D⑩), 「人頭税石」(D⑪), 「大和井(ヤマトウガー)」(D⑫), 「久松五勇士顕彰碑」(D⑬), 「サバウツガー」(D⑭), あるいは久貝地域や伊良部島での巨石墓など、数多くの史跡・遺跡が各地に点在する。宮古島市教育委員会が発行する「歴史文化綾道ロード」資料には、上述以外にも多種類で多数の遺跡・史跡・記念碑などが取り上げられ紹介されている。

### 4. 地元住民の日常風景・日用品

宮古島城辺地区における「宮古太陽光発電実証研究設備」(E①), 「皆福地下ダム公園」, (住民意見が二分した)自衛隊基地などの立地は、島々の多くを占めるサトウキビなどの畑地用水設備(E②)などとともに、宮古島地方の日常風景の一部を成す。各地に散在する御嶽(うたき)・拝所(E③)は、日常・非日常に今もまたがって所在し、外来者がみだりに立ち入れないが、一番外側だけでも宮古らしい様子を日常的に拝見できる。

地元住民が利用するスーパーマーケットでは、市魚のタカサゴ(E④; 「グルクン」)や米粉加工飲料である桃色の「ピンクげんまい」(E⑤)や特徴的な菓子パン「うずまきパン」(E⑥)や「ジーマミー豆腐」(落花生原料の豆腐), 独特の線香や紙銭(E⑦)などを購入できる。集落内の地元住民の居宅門前には、市貝の水字貝(E⑧)や各種のシーサー(E⑨)を観察できる。集落内を歩くと、篠原(2020)でも紹介したように、様々な祈念風景を集落内外のあちこちで拝見できる。

地元住民の日常風景は、外来者のためには組織されていないため、昼間であっても、許可がなければ接近できる空間ではないが、地元住民は外来観光客が集落内外を多少なら歩き回ることを黙認している。UNESCO 無形文化遺産にも指定された平良地区島尻地域及び上野地区

野原地域の「パーントゥ」(E⑩)や伊良部島佐良浜地域の「ミヤークツツ」など、各種の集落行事についても、外来者の積極的参加は許されないが、邪魔にならない程度の周囲外側からの観察であれば、地元住民が基本的には黙認してくれている。ただし、地元住民が外来者に決して場所を教えない聖域や参観を許さない行事もあり、幾つかの拝所・御嶽のように、外来者が決して近づけない場所、外来者・関係者以外を完全に排除する空間がある。逆に、かつては聖域とされていたらしい場所が、草に埋もれている場合も見受けられる。

### III. おわりに：宮古島市における空間商品化の地域性

宮古島地方の内と外を結ぶ交通は、平良港フェリーターミナル(X④)を中心とする船舶(特に多良間島との間)と、宮古空港(X⑤)の国内線及び下地島空港(X⑥)の国内外線の航空機による。地方都市ながら、国際線を含む空港を2つも有するのは宮古島市の大きな特徴である。宮古島地方における陸上交通手段は、バス・タクシーのほかは徒歩によるしかない。したがって、目的地によっては、交通不便な場合がある。

宮古島市における観光地化は、新型コロナウイルス禍に特に見舞われた2020～22年にも進化した。観光客が気軽に立ち寄れる場所は、大型ホテル・リゾート・貸別荘地以外にも増え、2020年6月には土産物店・食堂・手洗所・駐車場を併設した「海の駅いらぶ」(X⑦)が伊良部大橋の伊良部島出入口広場前に新規開業した。全体の最大出入口である宮古空港と下地島空港の売店群でも、さまざまな宮古島地方らしい土産物を購入できる。「宮古島市観光商工課」(X⑧)は、基本的には観光商工の下支え役だが、そこでは、各種地域・観光パンフレットを外来者に実物でも配布している。

以上の交通条件と観光地化をふまえた上で、2023年末現在の宮古島市における空間商品化の地域的特性は、既述成果から以下のようにまとめられる。

#### (1) 宮古島地方でも空間商品化に地域的差異がある

宮古島であれば、自然風景が同様に綺麗であっても、東海岸沿いや内陸では地域空間商品化の進行度が、南海岸や西海岸沿いよりも低水準である。これは、外来者を意識した空間組織よりも、地元生活者の空間組織が優先される集落・産業事情が反映されている。伊良部島では、伊良部大橋が架橋されて後に観光地化が急進行し、特に伊良部大橋より北西部の伊良部島西部海岸がリゾート・貸別荘地化した。

#### (2) 自動車交通を大前提とする観光資源が目立つが、徒歩で魅力的資源を観察できる

日本のどこでも同傾向と考えられるが、宮古島市でも自動車移動を大前提とする観光資源展開が多い。しかし、宮古島市総合博物館などは貴重な学習資源ながら交通不便で、興味ある外来者が近づきにくいのは実にもったいない。外来者が、徒歩を多用せざるを得ないのを逆手にとって、集落内外をゆっくり歩き回ると、観光客を意識しない人々や自然の日常風景を多く楽しめるのも、他地同様と言えるが、その日常風景はどれも個性的でありながら、いやしの気分と部分的には怖さをもたらす原初性を体感できる。

#### (3) 昼間の農山漁村的空間商品化がみられ、冬季は比較的に閑散期となる

大都市圏ほかから都市住民が外来者として数多く来訪するが、宮古島市平良地区の中心市街地で夜間賑わう飲食店街を除けば、基本的には昼間(の限定された時間帯)のみ接近可能な空間商品化が見られる。日本列島の北方とは対照的に、天候不順で気温が下がる冬季が比較的に外来者の減少する閑散期となる。この閑散期には、宮古島地方の最大産業であるサトウキビ栽培の収穫期・加工製糖期で、宿泊施設の一部は休業する。

#### (4) 台風など自然災害による資源維持が容易ではない

外来者も意識して整備されながら、台風などの自然災害で一時的に破壊され、元に戻せない海岸遊歩道も見受けられる。何度も同様な被害を受けるならば、簡単には復旧できないのである。あるいは、「ドイツ文化村」では、近年の新型コロナ感染拡大期に観光客が激減した影響で削減した人員を、予算不足もあって、まだ元に戻せずにいる。このような「資源未復旧」は、他の日本各地でも共通して見られる現象である。この意味では、外来者向けにわざわざ作る「資源」よりも、日常的な風景や生活資源の方が維持されやすく、外来者も接近しやすい。ただし、地元住民が自らの生活資源を無理に提供するのとは、「空間商品化」の前提が「地域振興」であるならば、本末転倒である。外来者と地元住民が空間利用で協調するとしても、外来者は、あくまでも地元住民の生活を邪魔してはならない。地元住民も、自らの生活必須資源を外来者に売り渡してはならない。宮古島地方の大切な「らしさ」を守り維持するためにも、厳しい線引きはあってしかるべきである。「宮古島地方らしさ」を失えば、外来者も訪ねず、地元住民も特徴的な誇りある地域生活が不可能となる。

以上、宮古島市における空間商品化の地域的特性につ

いて簡単な考察を進めたが、本稿で採り上げた地域空間商品化の資源事例は一部に過ぎず、未紹介部分にも魅力的なもの・こと・ひとが沢山存在する。また、個別資源の詳細な空間商品化の特性・広がり、それらをふまえてのさらなる総合的考察については、それぞれ関係者への詳細な聞き取り調査や現地での更なる観察及び空間利用調査の成果に基づいて論じる必要がある。これらは今後の課題である。

本稿を作成するにあたっては、科学研究費補助金（基盤研究(C)「日本の大都市僻遠臨海地における水産業の地誌学的研究」(課題番号 16K03182；平成 28～令和 5

年度)の一部を使用しました。

## 文 献

篠原秀一 (2020)：宮古島市伊良部島・下地島における地理写真にみる地域生活の中の祈念風景. 秋田地理, 第 35 号, pp.14～22.

篠原秀一 (2021)：沖縄県宮古地方におけるさとうきびの栽培・加工と景観型. 秋大地理, 第 68 号, pp.31～38.

宮古島市役所観光商工課 (2023)：宮古島観光マップ (2023 年 3 月版). 宮古島市役所, 折畳み B 2 判.